

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「LEDが魅せるまち・とくしま」推進プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

徳島市

3 地域再生計画の区域

徳島市の全域

4 地域再生計画の目標

徳島市は、市の北部を流れる四国一の大河・吉野川と、その支流が育てた三角州に発達した四国の東部に位置する徳島県の県庁所在地である。

市内を、吉野川をはじめとする大小あわせて138の河川が流れる水の豊かなまちで、市の中心部は、新町川と助任川に囲まれた中州が上空から、ひょうたんの形に見えることから、市民から「ひょうたん島」の愛称で親しまれており、他市にない景観特性を有している。

本市では、この特性を最大限に生かすため、平成4年に「ひょうたん島水と緑のネットワーク構想」を策定し、公園や遊歩道の整備をはじめ、護岸の修景、島の周囲を巡る周遊船の運航など、ひょうたん島を中心とする水を生かしたまちづくりを進め、平成8年には国土交通省が認定する「水の郷百選」の一つとして選ばれるなど、全国的にも高い評価を得ている。また、NPO法人や民間事業者が中心となって、周遊船の運航や水際での多様なイベントの開催なども行われている。

しかし、全国には水都を名乗る地域が数多く存在しており、水と緑が豊かであるということだけでは、激化する地域間競争に打ち勝つことは難しいと考えられる。

そのため、平成19年度に策定した「第4次徳島市総合計画」において、これまで整備してきた水と緑の魅力に、LEDによる「光」の要素を加えることで、他の都市にはない新たな魅力を持つ「水都・とくしま」を創造・発信することを、重点的に取組むリーディング・プロジェクトの一つに掲げることとした。

この「光」は、現在、第4世代の光源として注目を集めているLED（発光ダイオード）を用いるもので、LEDの開発・応用に関して、徳島では、多くのLED関連企業のほか、学術的蓄積がある大学等の教育研究機関が存在し、特に、LED産業の先駆的企業とも言える日亜化学工業(株)があるため、他の地域と比較して圧倒的な優位性を有している。

この優位性を生かして、本市では、ひょうたん島に架かる橋のなかで、今年度は、ふれあい橋から新町川水際公園にかけてLEDを用いた景観整備を行い、また平成21年度にはLEDを活用したアート作品でまちを彩る、LEDアートフェスティバルの開催を予定し、水と緑の魅力に光の要素を加えた演出を目指している。

なお、これらの取り組みについては、ただ単なる景観整備や、LEDアートフェスティバルの開催だけを目的としたものではなく、「徳島＝LED」というイメージを全国にPRをすることで、市内に事業所を有するLED関連企業数の増加を図るとともに、新たな観光地づくりによる本市の交流人口の増加を図ることも目的としている。

本市はこれまで「LEDが見えるまち・徳島」というキャッチフレーズでLEDを活用した取り組みを推進してきたが、今後は、より積極的にLEDの魅力を引き出したまちづくりの推進を図るという趣旨により、「LEDが魅せるまち・とくしま」という新たなキャッチフレーズを掲げた取り組みとする。

この「LEDが魅せるまち・とくしま」を推進するにあたっては、行政だけが企画し運営を進めるのではなく、市民・企業・大学・専門家等との協働が不可欠であり、LEDの「光」をキーワードとした様々な活動による新たな交流の促進やまちづくりに対する市民意識の高揚、さらには、市民が主体となったまちづくりへと発展させることが重要である。

こうしたことから、地域再生計画に基づく支援措置を活用して、本市とNPO法人が協働して、まずは、LEDアートフェスティバルの開催に向けた体制の整備を行うことにより、「LEDが魅せるまち・とくしま」の推進を目指すものである。

【指標1】LED産業クラスターの形成（市内に事業所を有するLED関連企業数）

15社（平成19年度） → 26社（平成22年度）

【指標2】交流人口の増加（ひょうたん島周遊船の乗船者数）

26,879人（平成19年度） → 28,000人（平成22年度）

【指標3】市民意識の高揚（「LEDが魅せるまち・とくしま」活動参加者数）

未実施（平成19年度） → 200人（平成20年度） → 400人（平成22年度）

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

「LEDが魅せるまち・とくしま」を推進プロジェクトは、ひょうたん島に架かる橋などの水辺空間にLEDを用いた景観整備や樹木のイルミネーション、信号機、街路灯、公園施設の照明等をLEDに交換または新設するなど、目に触れる場所へLEDの活用を図るハード整備と徳島で培われたLED技術に新たな芸術の力を融合させ、芸術家・市民・企業などが制作したLEDアート作品でまちを彩る、徳島LEDアートフェスティバルを開催するソフト事業が大きな柱として推進を図る。

これらの整備やLEDアートフェスティバルの開催が、「徳島＝LED」のブランドイメージを確立するとともに、LEDの「光」の要素を加えた新たな魅力をもつ「水都・とくしま」を創造・発信につながり、市内に事業所を有するLED関連企業数の増加を目指すものである。平成20年7月末現在、徳島県にはLED関連企業が50社存在しており、LED産業クラスターが形成されつつある。徳島市においても、独自の企業誘致策を定める「企業誘致（ウエルカムT）推進プラン」の策定し、そのなかで特にLED関連企業に対しては、積極的な立地支援メニューの検討を進めている。

また、徳島LEDアートフェスティバルにおいては、まちづくりの主役である市民の積極的な関わりが不可欠であり、市民へのLEDに関する情報提供や意識高揚につながる取り組みが重要となっている。そこで、このフェスティバルをまちづくりの起爆剤として、市民・行政・企業・大学・専門家等の協働による持続的なまちづくりにつなげるため、市民の暮らしに根付いた「LEDが魅せるまち・とくしま」を市民自らがつくりだすための具体的な活動を行い、新たな交流の促進やまちづくりに対する市民意識の高揚、さらには、市民が主体となったまちづくりへと発展を目指すものである。

5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当無し

5-3 その他の事業

5-3-1 基本方針に基づく支援措置

（支援措置の名称）

B2001 官民パートナーシップ確立のための支援事業

（支援措置の内容）

- ・ オープンハウスの設置運営に関する費用（LEDに関するセミナーやワークショップの講師謝金・支援スタッフ人件費、資料や案内チラシ等の印刷代、LED機器のリース料等）についての支援
- ・ 運営会議の運営に関する経費（資料等の印刷代、支援スタッフ人件費等）についての支援

(支援措置の対象とする事業の内容)

- ・ LEDを知る・学ぶためのセミナーの開催、LEDを生かす・使うためのものづくりワークショップの開催、また、LEDに関する様々な活動について情報発信して伝えるという大きな3本柱を進める拠点となる「オープンハウス」を設置し、運営することにより、市民のLEDを活用したまちづくりへの関心や機運を高める。
- ・ 今回の取り組み全般の調整や、徳島市のLED関連の取り組み等との調整等を行うため、運営会議を開催する。運営会議には必要に応じて、大学や企業関係者等この事業の協力者の参加を得て、相互の意志疎通を図り、事業全体の整合性を図るための連絡調整を行う。

5-3-2 独自の取組

(1) LEDアートフェスティバルの開催

LED技術とアートの融合に挑戦し、「徳島＝LED」というイメージを全国にPRをする機会として、3年に1度の市民参加型の芸術祭を開催する。また、これを起爆剤に、市民・行政・企業・大学・専門家等の協働による持続的なまちづくりを推進する。

平成20年度においては、早期に実行委員会を設立し、開催に向けた協議に入ると同時に、ホームページの開設、ポスター・リーフレットの作成、作品の公募、LEDアート作品の制作についての相談窓口の設置等について検討をはじめめる。

また、市民参加を促すための取り組みとして、LED提灯等の制作、NPO法人との協働提案事業である「LEDが魅せるまち・とくしま発見」事業等に取り組んでいる。

平成21年度には、LEDアートフェスティバルの開催を市民レベルで支えるものとして、本支援事業で設置運営する「オープンハウス」における活動を契機として、徳島市とNPO法人が主体となり、そこに市民・企業・専門家等幅広い関係者が参加・協働する人的な協働体制の「LEDサポーターズ(仮称)」を設立し、平成22年春の開催に向けたサポート活動を開始する。

さらに、LEDアートフェスティバルの開催後には、「オープンハウス」を発展させて、「LEDサポーターズ(仮称)」が活動するための常設の場となる「LEDまちづくりハウス(仮称)」を設置して、「LEDが魅せるまち・とくしま」を実現するための、LEDに関するキーパーソンの発掘と育成、市民ネットワークの構築、市民と企業の協働関係の構築を目指す。

(2) LEDを生かしたまちづくり

新町川水際公園の樹木のイルミネーションを現在の電球からLEDに交換するとともに、その他既存の街路灯などの街の照明等、さまざまな公共事業においてLEDを活用して、市民にとって安心・安全で、生活や環境にやさしいまちづくりを進める。また、より効果的な推進のため市役所の関係部署が集まり、庁内研究会を実施する。

(3) LED景観整備事業

ふれあい橋・新町川水際公園におけるLEDによる景観整備を実施し(H20年7月末完成)、これまで以上に市民が親しみ、憩える、また観光客にも滞在したいと思われるような空間を創造する。また、今後も「LEDが魅せるまち・とくしま」の実現に向けて、LEDによる中心市街地の景観整備を検討する。

(4) LED関連企業の誘致

徳島市独自の企業誘致策を定める「企業誘致推進(ウエルカムT)プラン」を策定し、特にLED関連産業については、積極的な立地支援メニューを策定して誘致を図り、徳島と共に歩む企業を育てる。

6 計画期間

平成20年度～平成22年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

計画期間終了後に、4に示す数値目標に照らして、徳島市が達成状況の調査及び評価を実施し、結果を公表する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し

○添付資料の一覧

(付録 1)

地域再生計画に含まれる行政区域を表示した図面

(付録 2)

地域再生計画【LEDが魅せるまち・とくしま推進プロジェクト】の
工程表及び説明文書

(付録 3)

地域再生計画の全体像を示すイメージ図

地域再生計画に含まれる行政区域を表示した図面



徳島市：「LEDが魅せるまち・とくしま」推進プロジェクト

地域再生計画【LEDが魅せるまち・とくしま】の工程表

年度	事業名		平成20年度	平成21年度	平成22年度	
支援措置	官民パートナーシップ確立のための支援事業(B2001)	運営協議会の開催	H20.11 運営協議会の開催	継続して運営協議会を開催		
		オープンハウスの設置運営	H20.11 オープンハウスを設置し、活動の実施	継続して「オープンハウス」を設置		
関連事業	(1)LEDアートフェスティバルの開催		開催に向けた準備 → 開催			
	LEDアートフェスティバル開催に関連した取組	・「LEDが魅せるまち・とくしま発見」事業	ワークショップ開催(市民参加の推進)			
		・LEDサポーターズ(仮称)の設立		市民参加の「LEDサポーターズ」を設立	継続して「LEDサポーターズ」の活動	
		・LED提灯等の制作		制作(地域のコミュニティ協議会)		
		・LEDまちづくりハウス(仮称)の設置			「オープンハウス」を「LEDまちづくりハウス(仮称)」に発展	
	(2)LEDを活用したまちづくり		庁内研究会の開催	防犯灯・街路灯・信号機等へのLED活用推進		
	(3)LED景観整備事業		水際公園・ふれあい橋の景観整備	徳島駅前から新町橋、阿波おどり会館に至るまでのシンボルロードの景観整備		
(4)LED関連企業の誘致		企業誘致プランの策定	プランに基づく企業誘致の推進			

「LEDが魅せるまち・とくしま」の実現

地域再生計画の工程表の説明

○支援措置

(A) 徳島市とNPO法人コモンズとの運営会議の開催

■徳島市とNPO法人コモンズにて、今回の取り組み全般の調整や徳島市のLED関連の取り組みとの調整等を行うため、運営会議を開催する。

運営会議には必要に応じて、大学や企業関係者等、この事業の協力者の参加を得て、相互の意志疎通を図り、事業全体の整合性を図るための連絡調整を行う。

⇒(効果) ◆運営会議において、市民ニーズや抱えている課題への対応を検討することによって、市民が育てる「LEDが魅せるまち・とくしま」実現のための活動が具体的に展開される。

◆大学や専門家との連携により、活動の幅の広がりや質の向上が期待でき、市民に良質な情報や活動の場が提供できる。

◆運営会議を実施することで、「LEDが魅せるまち・とくしま」の継続的かつ戦略的な活動計画の立案が可能となる。

(B) オープンハウスの設置運営

(1) LEDセミナーの開催【LEDを知る・学ぶ】

■LEDに関する基礎知識を知り、多様な活用方法を学ぶ。

■大学や関連企業の協力により、専門知識を有する講師を招いて開催し、人材育成や市民と専門家のネットワークづくりへと繋げていく。

⇒(効果) ◆LEDの多様な知見の集積。

◆LED活用のアイデア創出。

◆新たな人材の発掘と育成。

(2) LEDワークショップの開催【LEDを生かす・使う】

■LEDを活用したものづくりのアイデアを検討する。

■次年度開催予定の「徳島LEDアートフェスティバル」に関連する芸術作家を招き、作家と市民の協働によるものづくりを検討する。

■LED関連企業の参加を求め、市民目線による商品開発の場とするとともに、市民と企業の新しい協働関係づくりの契機とする。

⇒(効果) ◆作家や専門家との協働による質の高い活動の場づくりの実現。

◆作家との協働による参加者の意識高揚。

◆市民ネットワーク、市民と企業のネットワークの形成とキーパーソンの発掘。

(3) LED活動の情報発信【LEDを伝える】

■市の施設や中心市街地の空き店舗等を活用して、LEDセミナー、LEDワークショップの開催情報や活動内容などを発信する。

■情報発信の手段として、活動パネル等の展示を行い、市民が立ち寄りやすい雰囲気作りを行う。

⇒(効果)◆施設等の有効活用。

◆セミナー開催やワークショップ拠点としての場の活用によるタイムリーな情報提供。

◆「顔が見える活動」としての展開。

○関連事業

(1) LEDアートフェスティバルの開催

LED技術とアートの融合に挑戦し、「徳島＝LED」というイメージを全国にPRをする機会として、3年に1度の市民参加型の芸術祭を開催する。また、これを起爆剤に、市民・行政・企業・大学・専門家等の協働による持続的なまちづくりを推進する。

平成20年度においては、LEDアートフェスティバルの開催に向けて、実行委員会を設立して事業計画を協議・準備するとともに、LEDアートフェスティバルへの市民参加を促すための取り組みとして、徳島市とNPO法人が協働で取り組む「LEDが魅せるまち・とくしま発見」事業において、LEDアートフェスティバルにおけるLEDアート作品の展示場所探しを市民参加のワークショップにより実施する。

平成21年度には、LEDアート作品の公募・選定・制作、広報等を進めるとともに、引き続き、LEDアートフェスティバルへの市民参加を促すための取り組みとして、市中心部のコミュニティ協議会に対して、LED利用備品の整備(LED提灯等の制作)への補助を行う。また、開催を市民レベルで支えるものとして、本支援事業で設置運営する「オープンハウス」における活動を契機として、徳島市とNPO 法人が主体となり、そこに市民・企業・専門家等幅広い関係者が参加・協働する人的な協働体制の「LEDサポーターズ(仮称)」を設立する。

さらに、LEDアートフェスティバルの開催後には、「オープンハウス」を発展させて、「LEDサポーターズ(仮称)」が活動するための常設の場となる「LEDまちづくりハウス(仮称)」を設置して、「LEDが魅せるまち・とくしま」を実現するための、LEDに関するキーパーソンの発掘と育成、市民ネットワークの構築、市民と企業の協働関係の構築を目指す。

(2) LEDを生かしたまちづくり

新町川水際公園の樹木のイルミネーションを現在の電球からLEDに交換するとともに、その他既存の街路灯などの街の照明等、さまざまな公共事業においてLEDを活用して、市民にとって安心・安全で、生活や環境にやさしいまちづくりを進める。また、より効果的な推進のため市役所の関係部署が集まり、庁内研究会を実施する。

(3) LED景観整備事業

ふれあい橋・新町川水際公園におけるLEDによる景観整備を実施し(H20年7月末完成)、これまで以上に市民が親しみ、憩える、また観光客にも滞在したいと思われるような空間を創造する。また、今後も「LEDが魅せるまち・徳島」の実現に向けて、LEDによる中心市街地の景観整備を検討する。

(4) LED関連企業の誘致

徳島市独自の企業誘致策を定める「企業誘致推進(ウエルカムT)プラン」を策定し、特にLED関連産業については、積極的な立地支援メニューを策定して誘致を図り、徳島と共に歩む企業を育てる。

「LEDが魅せるまち・とくしま」推進プロジェクト

趣旨

徳島市は、日本が誇る大河吉野川をはじめ、大小138の河川が市内を縦横に流れ、緑のランドマークである眉山、また、中心市街地には城山を中心として新町川・助任川に囲まれたひょうたん島があるなど、他都市に類をみない、まさに「水」とともに発展してきた都市である。このような豊かな自然環境や、その中で育まれた阿波おどりなどの個性ある魅力的な文化を引き続き大切に守り育てながら、すべての市民が輝き、誇りをもって夢や希望を語りあえる、心がおどるような徳島を市民とともに創造していきたいという強い思いから、市の将来像を「心おどる・とくしま」と定めている。

また、徳島県には世界有数のLED（発光ダイオード）メーカーがあり、LEDの世界シェアで約25%を生産している世界一のLED生産地域である。LEDは、ろうそく、電球、蛍光灯に続く「第4世代の光源」として期待され、今後、思いも寄らない開発が進む可能性が秘められているとともに、徳島県の地域資源としての活用についても注目されている。そこで、この豊かな自然環境と地域資源であるLEDを活用した魅力的なまちづくり、「LEDが魅せるまち・とくしま」の推進を図る。

